

天理市



70年前に他の五町村とともに天理市となった旧「福住村」には、かつて85haの茶畑が広がっていました。淀川と大和川の源流が交わり、茶やワサビを買い付けに来る人、魚や日用品を売る人が行き交い、里山からの薪や炭が奈良盆地の暮らしも支えていました。

その後の経済成長の陰で、茶畑の多くが放棄地になり少子高齢化も進みました。

しかし、脱炭素社会・循環経済への転換が求められる中、福住は今新たな価値を生み出す土地に生まれ変わろうとしています。放棄されている間に化学肥料や農薬が抜けた茶園は、微生物が活動する有機農業の適地であることに私達は気づきました。野菜や薬草、ハーブの栽培についても、落ち葉や農作物残渣を利用した堆肥づくりを通じて、里山との循環を取り戻そうとしています。

高原・福住を中心として有機農業の推進による地方の再生を目指し、天理市はここに「オーガニックビレッジ」を宣言します。

令和6年3月10日

天理市長 並河 健